

# 橙の木

健康で心ゆたかな子 深く考えくふうして学ぶ子 進んではたらく子

4月号 杉並区立杉並第六小学校 <http://www.suginami-school.ed.jp/sugi6shou/>



## 「感謝」そして「使命」

校長 守田 聡美

この春、杉六小は64名の一年生を迎えました。お子様のご入学、ご進級、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

区内における新型コロナウイルスの感染状況や国の取組等を踏まえるとともに、感染拡大防止のため、明日から5月6日まで臨時休業の措置をとることにいたしました。

希望に胸躍らせる春、子供たちが渾身と学校生活をスタートするはずでした。教職員一同、本当に残念でなりません。子供たちは昨年度末から続く臨時休業から学校再開へと募る思いもあり始業式から始まる新たな学校生活を待ちわびていたことでしょう。中でも、新しいランドセルを背負って小学校へ通う日を指折り数えていた一年生の気持ちを思うと一層心が痛みます。臨時休業中の担任と保護者の皆様との電話連絡では、多くの子供たちがしっかり学習に取り組んでいたようです。保護者の皆様におかれましては、見通しのない状況で、ご心労も多々ある中、子供たちの健康管理と学習へのご理解とご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。

日々状況が変化する中、緊急メールやホームページ等、できる限り速やかに情報提供するよう努めておりますが、至らぬ点も多々あることと存じます。それにも関わらず、保護者や地域の皆様からは、教職員への温かな励ましや感謝のお言葉をたくさんいただきました。教職員にとって、子供たちの笑顔と保護者、地域の皆様からの温かなエールは大きな心の支えとなっております。

ピンチはチャンス、苦難の時だからこそ見えること、苦難の時にしか知り得ないことがあります。改めて、杉六小の保護者、地域の皆様から心から感謝いたしました。ピンチを前向きに捉え、これからも子供たちの安心と安全を守るために、保護者、地域の皆様と共に教職員一同全力で頑張ります。

今、世界中が誰も答えを知らない問題と戦っています。これからこうした問題を次々に乗り越えていかななくてはならないかもしれません。誰かが正しい答えを教えてくれる訳でも、とるべき行動を示してくれる訳でもありません。自分でよく考えよく判断し、自ら行動しなくてはなりません。誰かを責めても、誰かのせいにしても、何の解決にもなりません。世界中が繋がっているのも、どこかの国だけ、自分だけが助かるということもないように思います。周りの人々と知恵を絞り、力を合わせて、共に生きていくことが、求められているのではないのでしょうか。

昨今、塾やネットワーク上の学習ツール等、学び方の多様化が進む中で、「学校は何のためにあるのか」という問いに、これまで納得のいく答えを得られずにおりました。しかし、この一か月、友達との再会に安堵し、互いに「かかわり」を確かめ合うかのように嬉々として遊ぶ子供たちの姿から、「かかわり」を求める子供たちの姿から、共に生きる場としての、共に学ぶ場としての「学校」の価値を再認識しました。報道からは、雇用の安定を下支えする子供の居場所としての「学校」の役割を知りました。「学校」は、人々が安心して働くことができる子供の居場所でした。

今、多くの人々が、当たり前の毎日を、当たり前にある物事を、当たり前の人と人のかかわりを、改めて振り返り、その存在の重みと尊さを感じているように思います。当たり前の中に平和があり、幸せを感じるからでしょう。「学校」は時代をこえて存在し続け、全ての人々の心の中に「学校」で過ごした当たり前の「平和」と「幸せ」があります。「学校」を開くということは、「当たり前の象徴」として人々の心に、まちに安心と安全を届けることができると思いました。保護者、地域の皆様と共に、社会の安全装置としての「学校」の使命を果たして参りたいと思います。